2011年度
UNISON代表者会議

2011年度　学生代表
伊藤琢博（大阪府立大学　学部4年）
牟田梓　（東京工業大学　修士2年）
春木美鈴（横浜国立大学　修士2年）

－目次－

1，アジェンダ 3
2，2010年度UNISON決算報告 4
3，2011年度UNISON会計予算案 5
4，UNISON2011 体制 6
5，今年度WG活動 10
6，UNISONプロジェクト 15
7，参考資料 19
8，参加者一覧 21
9，名札用の紙 23

日時	主な変更点	担当
2011/07/24	初版　春木	春木
2011/08/04	コメントを受けて修正　春木	春木

1，アジェンダ

時間	内容	担当	資料
10:00 10:10	学生代表挨拶 各団体代表自己紹介	学生代表 各団体代表	
10:30	昨年度決算報告 昨年度活動報告（UNISONPJ：光学観測） （各 WG）	学生代表 小林（東海大）	
10:50 11：20 11：40	2011 年度 UNISON 体制説明 代表者プロジェクト 今年度予算概要 質問 各 WG 活動内容 UNISON プロジェクト（UNISTAR） 発表・質疑応答・予算審議・採択	春木	

2, 2010年度UNISON決算報告

昨年度の決算をTable2-1、2、3に示す。

Table2-1　2010年度UNISON支出会計報告

2010年度収入	¥1,805,378
2010年度支出	¥842,050
2011年度への繰越金	¥963,328

Table2-2　2010年度UNISON支出会計報告

グループ	項目	担当者	金額(使用予算)	使用金額(支出)
定例イベント	総会	UNISON 代表	¥275,000	¥169,000
	WS	UNISON 代表	¥500,000	¥573,920
衛星	ARLISS	ARLISS 代表	¥60,000	¥0
	GSN	GSN 代表	¥70,000	¥70,000
ロケット	ロケット	ロケット代表	¥80,000	¥0
	安全管理	安全管理代表	¥40,000	¥0
ロケット衛星		ロケ衛星代表	¥20,000	¥0
広報 WEB		広報 WEB 代表	¥150,000	¥0
交流	交流会	交流会代表	¥80,000	¥12,990
UNISONPJ	ロケット計測器	小林(東海大)	¥25,000	¥9,830
諸経費		UNISON 代表		¥4,000
振込み手数料		UNISON 代表		¥2,310
合計			¥1,300,000	¥842,050

Table2-1　2010年度UNISON収入会計報告

2009年度繰越金	¥461,228
2010年度学生会員費	¥1,344,000 (学生会員:　448人)
金利	¥150
合計	¥1,805,378

３，2011年度UNISON会計予算案

UNISECとUNISONのお金に関して

UNISON学生活動に関わる資金として、UNISEC予算とUNISON予算に区分がされる。後者のUNISON予算はUNISON学生会員費（1人3000円）で成り立ち、その使用方法の権限はUNISON代表者と各団体代表・各WG代表に決定権がある。本代表者資料の予算・決算の対象はUNISON予算であり、以下の2011年度予算案は2011年度代表伊藤（大阪府立大）、牟田（東工大）、春木（CORE）によって提案される。以下の案に関しては各団体代表と各WG代表がそれぞれ1票ずつもち投票数の過半数以上で可決とする。

今年度予算に関して以下のように提案する。

Table3－1　今年度予算

2010年度繰越金	¥963,328
2011年度予算	¥1,296,000

（学生会員：432人　2011年6月30日現在）

Table3－2　予算内訳

グループ	項目	担当者	金額（予算）	予算合計
定例イベント	総会	UNISON 代表	¥208,000	
	WS	UNISON 代表	¥492,000	¥700,000
学会	ISTS	UNISON 代表	¥100,000	¥100,000
衛星グループ	交通費・活動支援（衛星グループ）	牟田（東工大）	¥170,000	
	ARLISSWG	伊藤（大阪府大）	¥58,000	
	GSNWG	井上（日大）	¥80,000	
ロケットグループ	交通費・活動支援（ロケットグループ）	春木（CORE）	¥ 60,000	
	能代運営 WG	春木（CORE）	¥110,000	
	缶ロケ WG	春木（CORE）	¥0	
	安全管理 WG	丹羽（筑波）	¥0	
広報		能美（慶應義塾）	¥0	
交流	関東交流会 WG	川村（東海）		
	関西交流会 WG	片山（京大）	¥35,000	¥ 513,000
UNISONPJ	UNISTAR	春木（CORE） 園田（東海）	¥150,000	¥150,000
代表活動支援		UNISON 代表	¥200,000	¥ 200,000
合計			**¥1,663,000**	

＜WS旅費＞

参考）2010香川：58万、2009慶應：21万、2008秋田：86万、2006仙台：40万、2004九州：19万

＜注＞9月にWGの予算執行状況を確認、必要があれば予算の割り当てを再考する。

WGの決算は九州でのWS時に行う。また2011年度（2012年3月31日）までの活動の決算は3月中に行う。

4, UNISON2011年度　体制

UNISON WG体制など、今年度のUNISONの取り組みについて、実施した経緯と目的、またその具体的な活動内容について簡単に説明する。

4，1　UNISONが抱える現状と問題点とUNISON2010の体制

UNISON2010の体制として新しくWG体制が置かれた。その背景として以下のようなUNISONの現状があげられる[1]。

- ✧ UNISON学生の勢いの無さ
  - ➢ 近年、「以前ほどの勢いがない」先生方・OB/OGに言われることが多い。個々の団体での活動レベルは高くなってきていると思うが、UNISON会計が旅費支援ばかりに使われるなど、UNISECとしての活動の“勢い”は低下していると考えられる。
  - ➢ そこで、何か新しいことを考え、実施していきたいと強く感じている。
- ✧ 学生会員（UNISON）の人数増加
  - ➢ UNISECとしての勢いが減少している原因のひとつにもつながるが、組織が大きくなり、全体像が見えないという問題があるのではないかと考えている。
  - ➢ そこで、より分かりやすい組織体系を考える必要があると考えた。
- ✧ ‘つながり’が疎遠
  - ➢ 「大学衛星コンソーシアム」と「ハイブリットロケットグループ」がくっついてUNISECが設立しているにも関わらず、実際その意味をなしているか疑問に感じている。
  - ➢ また、ヨコのつながりだけでなく、OB/OGや先生方とのつながりも疎遠で、UNISEC全体の強みを生かしきれていない気がする。
- ✧ 各団体がUNISECの中で活動。UNISEC全体として活動するべきではないか。

そこで、UNISON2010では、以下の目的のもとUNISON活動が行われてきた。

（1）新しい活動を実施する
（2）分かりやすい組織体系にする
（3）UNISEC全体として活動する

具体的には以下の4つの活動が実際に行われUNISON活動の活発化につながっている。

（1）WG体制の整備
（2）WEBによる情報共有
（3）衛星ロケットのコラボレーション
（4）忘年会の実施

4，2　今年度体制案

今年度も基本的には前年度と同じ方針で運営する。ただし、前年度体制で反省点として挙げられた点の修正をする。

昨年度の反省は以下である。

- ✧ WGの数が多すぎて、お互いがなにをしているのかが分からない。
  - ➢ WG同士の交流がなかったため、お互いにどのような活動をしているか見えにくくなっていた。また、活発に活動したWGとそうでないWGとの差が大きく見られた。
- ✧ UNISUNISON活動にかかわっているメンバーが一部の人間に偏った。
  - ➢ 以前と比べて各WG内での活動は活発化したが、各WGの構成メンバーがごく少数であったため、WGの活動に加入していない学生会員にとって、UNISECの活動を把握しにくい状況であった。

よって本年度は前年度体制に対し、以下の修正を加える。（Fig..4-1，Fig..4-2参照）

- ✧ WGを既存の10個から4個に整理する。
  - ➢ 把握しやすいように機能ごとにまとめる。（活動が減ったわけではない）

Fig..4-1　2010年度　WG体制

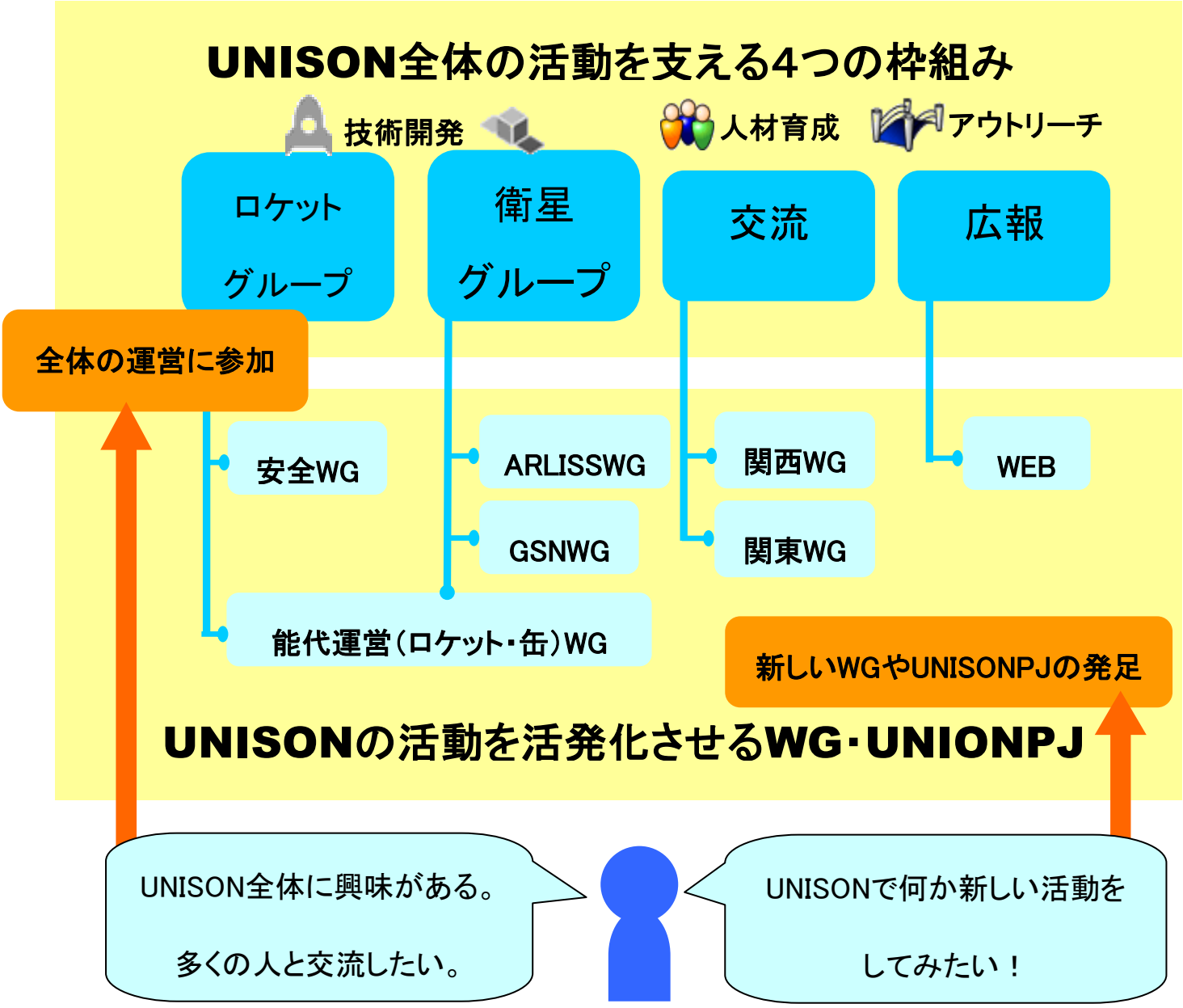

Fig..4-2　2011年度　WG体制

4，3　代表者プロジェクト

UNISON代表として、UNISON会員に対し以下のような活動を試みる。

✧　**全国行脚プロジェクト（みえちゃったプロジェクト）**

- 1人のUNISON学生会員からUNISON全体の活動や他団体活動が見えやすい環境作りを行う。具体的にはUNISON代表3人が、UNISON全団体に見学にいく。 代表と友達になることで、UNISONが自分たちのものに見えてくることを狙う。
- すでに行脚させていただいた団体一覧
  - 大阪工業大学
  - 東京都立産業技術高専専門学校
  - 慶應義塾大学
  - 大阪府立大学（SSSRC）
  - 電気通信大学

✧　**UNISONブログでのWGとUNISON活動・UNISON代表活動の可視化**

- 上記のみえちゃったプロジェクトに付随して、WGの活動と代表３人の活動をブログにて報告していく。

  UNISONブログ：http://unisonspace.blogspot.com/

注：代表者プロジェクトに関しては、UNISON予算からの支援は基本的にしないとする。

5，今年度WG活動とその支援金額に関して

5，1　衛星グループ

衛星グループは例年活動している次のグループを内包する。

✧ GSN WG

➢ 活動内容：

衛星通信局(Ground Station)をネットワークを介して相互に協力可能な地上局システムの構築を目指し、システムの構築とネットワークを広げる活動行う。具体的に、GSN内で開発した地上局ソフトウエアの導入促進する活動をメインに行う。また、国内外の衛星の受信協力支援. GSNの活動を周知してもらうよう、課外授業の実施などアウトリーチ活動にも力をいれていく方針である。アウトリーチとしてはハ木アンテナを用いた授業を3回行った。

➢ 申請金額

アウトリーチ活動×3回分

	物品名	小計	個数	金額
1	工作材料	¥　7,235	3	¥ 21,705
2	工作材料	¥ 17,050	3	¥ 51,150
合計				¥ 72,855

✧ ARLISS　WG

➢ ARLISS参加チームの取りまとめおよび本番の運営を行う。本年度は特に、ARLISSのより一層の国際化を図るべく、提出資料の英語化、海外の学校への呼びかけなどを行っている。さらに、ミッションコンペティションの開催により、全体としての成功率の向上に努める。

➢ 申請金額

	物品名	概要	金額
1	能代キャリア	去年まで使用していた、カンサット投下用キャリアが故障したので、新しいキャリアを製作する。	¥33,000
2	表彰楯	ARLISS2011 ミッションコンペティションの表彰楯	¥25,000
合計			¥58,000

これらの WG 活動に加えて、本年度は独自衛星のつながりを強めていくことを目的として以下の活動を行う。

（1）技術交流会

（2）勉強会

5，2　ロケットグループ

ロケットグループは例年活動している次のグループを内包する。

✧ **能代運営 WG（Cansat側・ロケット側）**

- 2011 能代イベントを運営する WG である。2011 年度能代イベント運営では「みんなでつくる能代イベント」として運営メンバーは各団体の代表、さらには各団体のメンバー全員と共にイベントを行う。これによってただ参加するのではなく、イベント全体を学生で作っていくという認識を高める。さらに来年度の能代イベントに向けて引き継ぎ体制を整え来年度のスムーズな活動の準備を行う。具体的には 2011WS にて次の能代イベントへの準備を進められるようにする。
- UNISTAR プロジェクト　能代イベントにて参加団体で1機のロケットの開発を試みる。詳細は UNISON プロジェクトを参照。
- 運営担当　：能代代表　　春木美鈴
  ロケット代表　小谷彬
  安全管理　　小黒純平
  Cansat 代表　山田皓司
  缶ロケコラボ　石黒隆史　瀬戸裕基
- 申請金額

	物品名	型番	小計	個数	金額
1	ランチャー修理代	HFSQN4-2090（400m）	¥7,000	1	¥7,000
2		HFSQN4-2090（1400m）	¥7,250	1	¥7,250
3		HFSQN4-2090（1600m）	¥8,288	2	¥16,576
4		HNTLG5　SET	¥218	8	¥1,744
5		発注代	¥7,430	1	¥7,430
6	能代観測隊備品	トランジスタ	¥60,000	1	¥60,000
合計					¥110,000

✧ **缶ロケコラボ WG**

- 缶ロケコラボ WG ではロケットと Cansat 側との交流を促進し、特に能代イベントでの缶ロケコラボに関して統括する。

これらの活動に加えて、本年度はロケットとして以下の活動を行う。

✧ 各団体のロケット勉強会

- 各団体それぞれハイブリッドロケットやコールドロケットとなどの異なるロケットの開発を行っている。総会・WS にてそれぞれのロケットに関して勉強会を開く。

✧ 問題の共有・解決

- 現状で各団体に共通する課題に対して、解決を討論する。総会では新入生への技術伝承を議題に話し合う予定。

✧ **安全管理 WG**

➢ ロケット打ち上げに関する安全管理をまとめ、その周知を図る。本年度の活動内容は前年度まとめた安全管理基準に関して HP にあげる。また安全管理基準に対しデータのアップロードを行う。なお、安全管理 WG として本年度予算要求はしない。

5，3 交流会

UNISON における人と人とのつながりをつくり、UNISON 自体の活動を活発化させる役割をもつ。今年度の活動は以下である。今年度の活動は以下である。

✧ 様々な形の交流会（**関東交流会 WG**）

➢ UNISEC事務局での交流会、ロジカルシンキング講演会、システムズエンジニアリング講演会、宇宙戦略に関する討論会、合宿、運動会等を検討している。総会にて各団体交流会 WG メンバーとキックオフを行い、検討を行う。

✧ **関西交流会 WG**

➢ 地方交流会として地盤を築き、UNISEC におけるアウトリーチ活動を様々な観点から行う。以下がスケジュールとなる。

6 月：新人への団体・UNISEC 紹介的な交流会（発表）

8・9 月頃：ゲストを迎えた研修プログラム（教育）

11 月頃：技術や研究についての発表会（発表）

3 月頃：アウトリーチ（教育）（詳細未定）

✧ 申請金額

	物品名	概要	小計	回数	金額
1	関東交流会	関東交流会における会場費・備品（マジックや模造紙等）	¥5,000	3	¥15,000
2	関西交流会	関西交流会における会場費・備品（マジックや模造紙等）	¥5,000	4	¥20,000
合計					¥35,000

5，4 広報

➢ 広報WGとして、次の2点を行う。

・基本的に、それぞれの団体でそれぞれの広報活動を行うことを中心にする。

・UNISON全体的な活動として、昨年度作成したUNISONWebを利用して、UNISONの「可視化」を進めていく。

さらに、webなどを利用した交流の補助体制をどうするか、RSSの配信だけでなく、時間、距離にとらわれない相互交流を取り入れるにはどうしたらよいかといった点を広報WG2011のメンバーと議論し、広報活動を進めていく。なお、広報WGとして本年度予算要求はしない。

5，5　WG申請金額まとめ

グループ	項目	担当者	金額（予算）
衛星グループ	衛星全体への支援	牟田（東工大）	¥170,000
	ARLISSWG	伊藤（大阪府大）	¥58,000
	GSNWG	井上（日大）	¥80,000
ロケット グループ	ロケット全体への支援	春木（CORE）	¥ 60,000
	能代運営 WG	春木（CORE）	¥110,000
	缶ロケ WG	春木（CORE）	¥0
	安全管理 WG	丹羽（筑波）	¥0
広報		能美（慶應義塾）	¥0
交流	関東交流会 WG	川村（東海）	
	関西交流会 WG	片山（京大）	¥35,000
代表活動支援		UNISON 代表	¥200,000
合計			**¥ 513, 000**

金額の決定方法

- ✧ 各WGの活動費の中で、「物品」については基本的に全額支援とする。
- ✧ 代表者活動支援に関して、諸々の運営等を円滑に進める目的で、UNISON代表が各地に出向く必要がある際に発生する交通費に充てる。
  例：総会前のUNISEC事務局との会議に必要な交通費。
  代表者プロジェクトでの行脚に関しては基本的に支援しない。
- ✧ 各WGでの交通費や新しい活動への支援は、衛星・ロケットにそれぞれ「5，5新たな活動への支援」として支援する。金額の用途に関しては、衛星は衛星代表（牟田），GSNWG代表（井上），ARLISSWG代表（伊藤）に一任、またロケットに関してはロケット代表（春木）、能代イベントWG代表（春木）、缶ロケWG代表（石黒）、安全管理WG代表（丹羽）に一任する。すなわち、交通費として計上するが、活動が活発になっていく中で物品が必要になった場合は、物品費として計上することを認める。
- ✧ 交通費の支援を行う場合はTable　5，5-2支援額を参照することでWG間での均等性を保つ。

5，5　新たな活動への支援

年間を通したUNISON活動活発化（自由なプロジェクト発足等）に対し、衛星・ロケットへの枠組みそれぞれに以下の支援金を行う。支援金は各地域に対し、支援金基準を定め団体数で決定する。衛星グループでは缶サット・独自衛星をそれぞれ行っている団体数を，ロケットはロケット開発を行っている団体数を参考としている。団体数は2011年6月30日時点の団体数に基づく。

Table　5，5-1支援金基準

地域	金額
北海道	¥15,000
東北	¥5,000
関東	¥0
中部	¥2,500
関西	¥7,000
四国	¥10,000
九州	¥15,000

Table　5，5-2支援額

グループ	地域	小計		金額
衛星	北海道	¥15,000	1	¥15,000
	東北	¥5,000	3	¥15,000
	関東	¥0	－	¥0
	中部	¥2,500	2	¥5,000
	関西	¥5,000	3	¥15,000
	四国	¥10,000	3	¥30,000
	九州	¥15,000	6	¥90,000
	合計			¥170,000
支援額（¥170,000）				
ロケット	北海道	¥15,000	1	¥15,000
	東北	¥5,000	1	¥5,000
	関東	¥0	－	¥0
	中部	¥2,500	0	¥2,500
	関西	¥5,000	2	¥10,000
	四国	¥10,000	0	¥10,000
	九州	¥15,000	2	¥30,000
	合計			¥60,000
支援額（¥60,000）				

6, UNISONプロジェクト

今年度UNISONPJとしてUNISTARプロジェクトが出ている。

6, 1　UNISTAR　プロジェクト

0.　プロジェクトの期間

通常プロジェクト

1.　プロジェクト名称

UNISTAR（UNIsec　STAndard　Rocket）Project

2.　プロジェクト代表者氏名

氏名（フリガナ）:　春木美鈴（ハルキミスズ）
E-mail:　d1ohb039@ynu.ac.jp
大学:　横浜国立大学
所属団体名:　CORE
学年:　修士 2 年

プロジェクト副代表者氏名

氏名（フリガナ）:園田拓也（ソノダタクヤ）
E-mail:　takuyasonoda@gmail.com
大学:　東海大学
所属団体名:　東海大学　学生ロケットプロジェクト（TSRP）
学年:　修士 2 年

3.　プロジェクト参加者名（大学名も入れてください） ※未定でもかまいません

参加団体一覧;　秋田大学
筑波大学
東京工業大学
東海大学
和歌山大学
CORE
九州大学（Planet-Q）

＊能代イベントに参加するロケット全団体が本プロジェクトに参加

4.　プロジェクト目的と内容

「共同ロケット UNISTAR の開発」

UNISEC 加盟ロケット団体で協力して1機のロケット（UNISTAR）を開発する。

本プロジェクトの目的は能代イベントでの打ち上げ成功のみでなく、今後の UNISEC のロケット団体での活動の土台作りを行う。

5. プロジェクトの実施（または成功）により期待される成果

（1）「各団体の技術力 UP」

本プロジェクトによりまずロケット団体同士の交流による各団体の技術力 UP が成果として期待できる。これまで総会や WS でロケット団体同士の交流が行われてきたが、ポスター等での口頭での交流であったため、技術的な交流が難しい状況であった。しかし今回同じチームで1つのロケット開発を行うことにより、各団体の技術が終結し、技術的な交流がなされ、各団体の技術 UP につながると考えられる。

（2）「安全意識の共有」

近年新規参入団体が増え、ロケット団体の打ち上げに対する安全意識の共有が難しくなっている。同じロケットの開発により共有することができる。

（3）「ニーズに答えるロケットの開発」

本ロケットでは UNISEC 加盟 Cansat 団体のロケットを搭載するため、Cansat チームとロケットチームの交流、特にインターフェイス面での交流を可能とする。さらにこれまでの缶ロケコラボでは 350ml の缶サイズの Cansat であったため、Cansat側にかなりの制限をかけていた。しかし本ロケットはこれまでになかったオープンクラスの Cansat を打ち上げるロケットの開発を行うため、搭載機器側のニーズに答えるロケットの開発を可能とする。

（4）「後輩につなげるロケットの一歩として」

本プロジェクトは通年プロジェクトであるが、本ロケットを通し問題とされている新入生への技術伝承を行いたいと考えている。現状設計段階が終了しているが、設計においてまだ課題が多く残っている。それらを今後のロケット団体が取り組んでいくことでゆくゆくは今まで取り組む事が難しかった宇宙へのロケットの開発の一歩としていきたいと考える。

6. プロジェクトスケジュール

2011 年 7 月 15 日現状確定している予定です。

6 月	ロケット設計
7 月	能代イベントキックオフ MTG
	各団体加工
8 月 22 日	UNISTAR 打ち上げ（変更あり）
8 月 25 日	ロケット団体の交流会

7. 申請金額

15 万円

8. プロジェクト予算案

ハイブリッドロケット1機分（Table 5－1 参照）

Table 5－1　予算内訳

分類	名称	項目	数量		小計
GFRP パイプ	主構造用 GFRP パイプ	不知火チューブ	200	[mm]	0
		タンクチューブ	450	[mm]	0
		モータチューブ	250	[mm]	0
		ノーズチューブ	100	[mm]	0
		全長小計	1000	[mm]	0
		購入分	1	[本]	15000
	インナー用 GFRP パイプ	ノーズカプラ	100	[mm]	0
		プッシャチューブ	105	[mm]	0
		全長小計		[mm]	0
		購入分	1	[本]	8000
ノーズ周り	ノーズコーン	オジャイブ	1	[個]	8028
	パラシュート	パラシュート	1	[個]	5351
		送料	1	[個]	10000
		エポキシパテ	1	[個]	1000
		先端金具	1	[個]	500
アルミ	構造用ジュラルミン	不知火プッシャプレート	3	[mm]	0
		不知火ベースプレート	25	[mm]	0
		ベルホールドプレート	40	[mm]	0
		エンドマウントプレート	25	[mm]	0
		全長小計	93	[mm]	0
		購入分	1	[個]	20000
分離機構	不知火 3	チェッカ	1	[個]	1000
		ホルダ	1	[個]	1000
		電磁弁	1	[個]	4652
		エアシリンダ	1	[個]	2673
		金属カラー	4	[個]	1220
		シャフト	3	[個]	4473

		金属ワッシャ	3	[個]	756
		樹脂カラー	3	[個]	630
		ウレタンクッション	3	[個]	303
		コイルスプリング	6	[個]	1170
		金属ワッシャータップタイプー	3	[個]	2583
		シャフト	3	[個]	7440
		樹脂ワッシャ	20	[個]	2780
		コネクタ	3	[個]	1050
		ウレタンチューブ	1	[個]	715
ボルト類	ねじ類	不知火コアユニットボルト	3	[個]	540
		不知火センターボルト	1	[個]	110
		汎用	2	[個]	220
		汎用	4	[個]	400
		汎用	2	[個]	200
		汎用	3	[個]	300
		汎用	2	[個]	200
		汎用	3	[個]	300
		不知火アイナット	3	[個]	2160
		機体組立用	2	[個]	1300
		機体組立用	1	[個]	650
フィン	フィン周り	フィンベース	3	[個]	1110
		フィンベース	4	[個]	1600
ハーネス類	アブソーバ,		1	[個]	3000
	アイナットひも		1	[本]	1000
	カラビナ類		3	[個]	3000
			1	[個]	1000
その他	その他	塗装	1		5000
		雑費	1		¥27,586

合計	¥150,000

7, 参考資料

7, 1 2011年度予算参考資料

Table7-1 総会交通費予算案

東北	北海道工業大学 佐鳥研究室	¥23,000
	北海道大学 宇宙環境システム工学研究室	¥23,000
	秋田大学 学生宇宙プロジェクト	¥10,000
	東北大学 吉田・永谷研究室	¥6,000
中部	静岡大学 SATT	¥2,000
	愛知工科大学 奥山研究室	¥5,000
関西	大阪府立大学宇宙環境利用工学研究室	¥8,000
	大阪府立大学 小型宇宙機システム研究センター（SSSRC）	¥8,000
	和歌山大学 宇宙開発プロジェクト (WSP)	¥8,000
	神戸大学	¥8,000
四国	香川大学工学部能見研究室	¥15,000
九州	九州工業大学 宇宙システム研究室	¥23,000
	九州工業大学 衛星開発プロジェクト / 趙・豊田研究室	¥23,000
	九州大学 PLANET-Q	¥23,000
	九州大学 宇宙機ダイナミクス研究室 (SSDL)	¥23,000

Table7-2 WS（九州）交通費予算案

注：以下金額に関しては目安であり、変更の可能性がある。

東北	北海道工業大学 佐鳥研究室	¥25,000
	北海道大学 宇宙環境システム工学研究室	¥25,000
	秋田大学 学生宇宙プロジェクト	¥20,000
	東北大学（ロケットプロジェクト）	¥20,000
	東北大学 吉田・永谷研究室	¥20,000
関東	CORE (Challenge of Rocket Engineering)	¥13,000
	東京大学 中須賀研究室	¥13,000
	東京工業大学 松永研究室	¥13,000
	首都大学東京 宇宙システム研究室	¥13,000
	電気通信大学 高玉研究室	¥13,000
	日本大学 宮崎研究室	¥13,000

	東京理科大学　木村研究室	¥13,000
	東海大学　学生ロケットプロジェクト	¥13,000
	慶應義塾大学　高橋研究室	¥13,000
	慶應義塾大学　慶應大学宇宙開発プロジェクト	¥13,000
	都立産業技術高専　宇宙科学研究同好会	¥13,000
	創価大学衛星開発グループ	¥13,000
	SDF (SPACE Development Forum)	¥13,000
	工学院大学 CanSat プロジェクト	¥13,000
	筑波大学宇宙技術プロジェクト（STEP）	¥13,000
	帝京大学 宇宙システム研究会	¥13,000
	東京工業大学 CREATE	¥13,000
	東京工業大学 動設計学研究室	¥13,000
	東京電機大学　プロジェクト F	¥13,000
	青山学院大学宇宙研究会	¥13,000
	多摩美術大学	¥13,000
	東京都市大学　宇宙システム研究室	¥13,000
中部	静岡大学 SATT	¥10,000
	愛知工科大学　奥山研究室	¥10,000
関西	大阪工業大学 宇宙推進工学研究室	¥10,000
	大阪府立大学宇宙環境利用工学研究室	¥10,000
	大阪府立大学　小型宇宙機システム研究センター（SSSRC）	¥10,000
	和歌山大学 宇宙開発プロジェクト (WSP)	¥10,000
	京都大学　生存圏研究所	¥10,000

8, 参加者一覧

1	北海道工業大学 佐鳥研究室	島谷悠花
2	北海道大学 宇宙環境システム工学研究室	金井竜一朗
3	秋田大学 学生宇宙プロジェクト	川端 洋
4		板垣 智紀
5	東北大学 吉田・永谷研究室	杉村伸雄
6	CORE (Challenge of Rocket Engineering)	木村 栞里
7	東京大学 中須賀研究室	大槻 兼資
8	東京工業大学 松永研究室	森井翔太
9	首都大学東京 宇宙システム研究室	内田 佳秀
10	電気通信大学 高玉研究室	中田雅也
11		北川広登
12	日本大学 宮崎研究室	相浦 啓司
13		斉藤 美幸
14		野口 拓人
15	東京理科大学 木村研究室	村上琢巳
16	東海大学 学生ロケットプロジェクト	川井寛量
17	東海大学 衛星プロジェクト	草野 悠太
18	慶應義塾大学 Team Wolve'Z	松村 哲哉
19		佐藤 峻介
20	慶應義塾大学 宇宙システムデザインコンソーシアム	宮川泰
21	都立産業技術高専 宇宙科学研究同好会	髙塚 圭人
22		成田 太航
23	創価大学 衛星開発グループ（ALIEN'S）	元兼 友城
24	SDF (SPACE Development Forum)	大川 智弘
25	工学院大学 CanSat プロジェクト	菅野 友樹
26	筑波大学宇宙技術プロジェクト（STEP）	馬 驍
27	帝京大学 宇宙システム研究会	丹羽 史明
28		篠崎 良佳
29		里村 優友

30		太田　興平
31		樋口　美菜子
32		柴田　克哉
33		齋藤　壮軌
34	東京工業大学 CREATE	稲川貴大
35	東京工業大学 動設計学研究室	山口　遼
36	東京都市大学　宇宙システム研究室	間瀬 大知
37	青山学院大学	浅井里美
38	SATT (Shizuoka university Aerospace Technology Training club)	田中善信
39	愛知工科大学　奥山研究室	金田　照彦
40	大阪府立大学宇宙環境利用工学研究室	小野　達也
41	大阪府立大学　小型宇宙機システム研究センター(SSSRC)	別所　昂
42	和歌山大学 宇宙開発プロジェクト (WSP)	大国友篤
43	神戸大学	大島逸平
44	京都大学　生存圏研究所	片山由美子
45	香川衛星開発プロジェクト／香川大学工学部能見研究室	細田貴之
46	九州工業大学 宇宙システム研究室	伊多倉京士朗
47	九州工業大学　衛星開発プロジェクト / 趙・豊田研究室	岡田和也
48	九州大学　PLANET-Q	神田　晃佑
49		瀬戸　裕基
50		高橋　正樹
51		三上　元
52	九州大学　宇宙機ダイナミクス研究室 (SSDL)	池田沙織

９, 名札用の紙